

たなか・ひとし＝69年京大法卒、外務省入省。
アジア大洋州局長、外務審議官などを経て現在、
(株)日本総研国際戦略研究所理事長兼(財)日
本国際交流センターシニア・フェロー。64歳。



林陽太郎富士
ゼロックス元
会長が主催
し、日、中、
韓、インドネ
シア、シンガ
ポール、フィ

先日インドネシア・バリ島を訪れた。約40年前にジャカルタで勤務していた時、休暇でよく訪れた馴染みの地である。今回は山側にある芸術の町ウブドのリゾートホテルで行われた三極委員会(アジア・北米・欧州)のアジア地域会議への出席である。半舗装の道でこぼこ道を通って辿り着いたホテルは別世界であった。うっそうとした椰子や熱帯植物が花をつけ、アジアのこれから、そして日本の未来を静かに考えるに適した場所だった。会議は日本国際交流センター(山本正理事長)を事務局とし、三極委員会の日本側座長である小

時評

電気新聞

2011.12.13

ウェーブ

アジアと太平洋の橋渡し

リピンなどの諸国の有力な有識者が参加して活発な議論を行った。外務省を退官した後の6年間、三極委員会委員として色々な会合に参加してきたが、今回は歴史の大きな曲がり角を感じさせる興味深い会合であった。この一年ほどの間に時代の変化を象徴する大きな出来事が起こってきた。中国の台頭、東シナ海や南シナ海にお

る攻勢、米国のアジア重視への戦略転換、チュニジアからエジプトそしてリビアに至った専制的政権の崩壊、欧州における金融危機。これらの出来事は好むと好まざるに係らず、米国を中心とした「西側民主主義先進国」が構築してきた秩序が音を立てて崩れたといえるのではないかという印象を与える。

東アジアでは10年先を見こした力のしぎあいが起きている。2010年に尖閣諸島問題で取った中国の強硬な一方的措置、南シナ海での東南アジア諸国との係争、空母やステルス機などの軍事力近代化といった中国の拡張に対し、米国は「尖閣は日米安保の対象」、「公海の自由航行は断固担保」といった声明、日韓といった同盟国

き着くのは果たして東アジアには欧米的効率主義と対比できるような独自のアイデンティティはあるのか、という点である。東アジア地域が地域社会として共通のアイデンティティを持てば、地域の対立がなくなるのではないか。日本では終身雇用制や会社内の給与格差の少なさなどの伝統的会社経営はグローバルイノベーションにより効

とだけではなく、ベトナムなど東南アジア諸国との共同軍事演習、豪州への海兵隊の配備、シンガポールへの戦艦配備といった措置をとり、東アジアサミットにも本年から正式参加した。日本にとっては歓迎すべき動きであるが、米国の姿勢をいぶかる声や第二の「冷戦」を危惧する声もあがった。

このような議論をしていくと行

論もある。

オバマ大統領は豪州訪問の際の

議会演説で米国は「パシフィック

だろ。